

新しい支援

私たちが望む「必要な支援」 ～ひきこもり経験者からの声～

現在、「ひきこもり支援」といわれるものは当事者発ではない「支援者が考えた支援」が一般的です。

そこで編集部では女性3名・男性10名のひきこもり等の経験者から、本当に必要な支援とは何なのか、意見を聞いてもらいました。

私たちが望む支援

・就労のために、「コミュニケーション」「社会常識」「仕事で必要な技能」の訓練の後に、理解のある職場に紹介し、なおかつその後継続的なフォローをしてくれる支援。今は、社会へ戻るための足がかりがない。支援のあとのフォローがない。「就職はハロワ行け」ではない支援。(40代・女性)

・就労がゴールという支援が多い。自分はひきこもり状態から働いた後も、他人とのギャップに苦しむ続けた。就労したから消えるような物ではないので、それを語る場所やサポートがほしい。(30代・男性)

・とにかく「外」と接点を作る「はじめの半歩」への支援。
例：お笑いなど趣味関係で、安全な「客」としての外出。客で済むイベントへの付き添い支援。(50代・男性)

・お金があるなら「お金」ならいなら「意識的な受容」が来たるべき支援。これまでは、支援者の自己実現欲を満たすための支援が多かった。それでは当事者が対象化されるだけ。支援者主体ではなく当事者の力を信じる。そのためには当事者の才能に、直接お金を渡す。ひきこもり新聞は筆者に原稿料を払っているのだから、サポート会員になることも重要な支援。(50代男性)

・農業で生活できる仕組み。技術を持つことで自信につながる。同じ境遇同士の人で、没頭して作業することは当事者に向いているのではない。訓練・定住まで含めた仕組みづくり。(40代・男性)

・災害復興、復旧ボランティアへの参加をしやすい仕組み。人のためになることで、生きる希望、自己肯定感を育むことができる。被害にあわれた方と共に活動することで、自分でも役割を担えると感じることが出来る。(40代・男性)

・日本は、様々な福祉制度と団体があるが、ひきこもっているとそれを知らない。利用しても、横のつながりが余りないので、他のサービスを利用しにくい。なのでワンストップで利用できる福祉リソースが分かる場所があると良い。(30代・男性)

・ひきこもりの裏には、病気や障害が隠れている場合も多い。医療や検査につなげられる仕組みが欲しい。(30代・男性)

・申込不要、気が向いた時に、いつでもふらふらと行ける居場所。対象者を絞り過ぎないよう、あまり力テゴライズしないで「生きづらさ」などの大まかなくくりが良い。(40代・女性)

・生活保護などは、一度受けてしまおうと抜け出しにくい。ベーシックインカムのような、累進給付的な支給の制度が必要。(40代・男性)

・農産物で生活できる仕組み。技術を持つことで自信につながる。同じ境遇同士の人で、没頭して作業することは当事者に向いているのではない。訓練・定住まで含めた仕組みづくり。(40代・男性)

・安心して失敗できる場。今までの支援は、「失敗しないようにこうしなさい」と形に当てはめる物が多いが、自分のひきこもり経験は「成功も失敗もできなかった時間」だった。失敗の可能性もある挑戦をしたい。(30代・男性)

・外の人も自然に繋がること出来る形。誰でも参加できる、サブカル系音楽やアート、大学のオープンキャンパスなどで、かなり立場の違う人でも、意外なほど話すことが出来て嬉しかった。(30代・男性)

・ひきこもり中の独学。どうしても方向性がずれて、関係のない哲学書や、政治思想などを読みすぎた。現在もネット授業はあるが、生身の先生と会っていきなくて分かる独学支援が欲しい。(30代・男性)

・無料で食べ物が手に入る、フードバンクのようなもの。隣近所の余った食料をもらいに行けたら良い。(20代・男性)

・様々な自助会や支援団体に行くための交通費を支給する制度(20代・男性)

・別に社会復帰をしたいわけではない。ひきこもりながら楽しく便利に生きていきたい。働く以外の支援が良い。ゴールが労働、社会復帰の支援は、後々自分がしんどくなって辞めそう(20代・男性)

・1人ではできないけど、何かやりたい、作りたいことができたときに、運営を手伝ってくれたら、ノウハウを伝えてくれる相談場所。ネットよりリアルにそういう場があると良い。(20代・男性)

・自分の歩みに沿った、心のかたちが極力変わらない支援。色々なケースの相談を受け、共通して必要なことだと感じた。従来の支援は、社会に適応するように心のかたちを変えるもの。(50代男性)

・当事者、経験者主体で運営している支援団体。誰が相手か分からないなら、当事者同士の方が信頼できるため関わりやすい。(30代・男性)

・立場や年齢などで一定の区切りがほしい。あまりに属性が違うと継続して参加しにくい。20代の課題・友人関係の構築、40代の課題・親亡き後の生活、のように目的が違うのではないか。(30代・男性)

・今の教育や家族というルートから離れ、指導ではなくそこに集う人で生活共同体を創造していく、「生活やり直し支援」。さらに農業などの訓練を受けて、そこで働けるようにする。(20代・女性)

・支援者が提供している支援に対して、当事者のマッチングが合わない場合がある。どの段階から支援するかを本人が把握できるようにする。自分が必要な支援を見極めさせてほしい。そのための手助けをしてほしい。(40代・男性)

・期限に追われ、「早く立ち直れ、就職しろ」と急ぎ立てられるのではなく、ゆっくりと自分のことや、これからのことを考えられる支援。(40代・女性)

・支援者が「ひきこもり経験」について、まず、そのまま認めてくれること。話すのが苦手でも安心して相談ができること。(30代・男性)

・外出や就労をゴールにせず、同じ場、人とずっと関われる形。就労してからも、外での経験がないため、強いプレッシャーが続くし、就労が続けられなくなり、再びひきこもる事があった。就労先で、ひきこもりへの理解のない発言や、パワハラ・セクハラに苦しんだ。技能の問題なら、力をつける気にもなれるが、こうした差別は耐えられない。ひきこもり経験のない人でも、同じように苦しんでいる人は多いはず。(30代・男性)

・結果よりプロセスを重視する(「リカバリー」をサポートする)支援。就労ありきのお仕着せ支援では、挫折感を育むものとなってしまふ場合がある。自信を回復させる支援がほしい。(30代・男性)

・世代をこえた交流、国籍をこえた交流。海外に行く(ピアサポートなど)。ひきこもり状態は世界がせまくなる。自分と全く違う人と交流する中で、思ってもみなかった行動をしたり、能力が開花することがある。そういうチャットを提供してほしい。(30代・男性)

・当事者/経験者が新たな支援者(ピアサポーター)になり、賃金を得られるようになる。経験者の雇用やキャリア構築にもつながる。ひきこもっても「これはキャリアを構築している途中だ」と思える社会であれば、少しは気が楽になるはず。(30代・男性)

・支援者に頼るのではなく、自分たちが自分たちのために考え、新しいやり方を作っていく「活動」(30代・男性)

・支援者には「就労」というワードを一度忘れてほしい。ひきこもりは働く以前が問題なので、もっと当事者の心に寄り添った支援が必要。(40代・女性)

・フルタイムで働ける体力がなく、就労を目指して挫折したので、ひきこもったまま出来る仕事をみながらつくる。(40代・女性)

・支援者が「回復」社会に従うという前提で支援しているため、そこに従うことができない当事者が排除される場面を見てきた。(40代・男性)

・支援者が「回復」社会に従うという前提で支援しているため、そこに従うことができない当事者が排除される場面を見てきた。(40代・男性)

・わかったような「やさしさ」の押し売り。結局「世間一般」の「常識」を「説得」してるだけ。これは怒鳴って働けと言っタイプと本質的に違はない。結局は就労ありきのゴールで、当事者に寄り添っていない。(50代・男性)

・就労支援で「ひきこもりだからしょうがない」と、どんな就職先にもあてはめるもの。結果として精神疾患になった。ニーズを無視してでも、たくさん就労させると、支援者の評価が上がる構造も疑問。(30代・男性)

・上から目線でダメ出ししてくるが、具体策を提示しない。相談事業はかりで具体的に役立つ行動をしてくれない。具体案を出せないのは支援側も勉強不足なのでは？(30代・男性)

・支援者が善行に酔い「支援してあげる」という感じのもの。対等に見られていないようで不愉快だった。(40代・女性)

・支援者が「回復」社会に従うという前提で支援しているため、そこに従うことができない当事者が排除される場面を見てきた。(40代・男性)

・支援者が「回復」社会に従うという前提で支援しているため、そこに従うことができない当事者が排除される場面を見てきた。(40代・男性)

こんな支援はいやだった

・支援者が「回復」社会に従うという前提で支援しているため、そこに従うことができない当事者が排除される場面を見てきた。(40代・男性)

・支援者が「回復」社会に従うという前提で支援しているため、そこに従うことができない当事者が排除される場面を見てきた。(40代・男性)

(構成 岡田・石崎)